

大東町

地形概況

南部の平野は菊川と牛湍川の自然堤防と閉塞による三角州性低地・砂堆列・人工斜砂丘・堤間湿地が平行する海岸低地からなり、大坂・千浜の砂丘は広い。西北部は小笠山丘陵で開析のすすんだ地形で佐東川・下小笠川ぞいに低地がひろがる。

地質概況

沿岸は広い砂堆と砂丘地の砂層が分布し、菊川の沖積地は泥層やシルト層からなる。小笠山丘陵の東南部は高位段丘礫層の小笠山礫層・海成砂泥層や河成砂礫層をもつ曾我層群、シルト岩や砂泥の規則的な互層をもつ掛川層群などが帯状に配列している。

気象概況

年平均気温が推定 15.7℃と県内でも気温が高い地域で、特に冬は暖かく真冬日がほとんどない。年平均降水量が推定 2,200mm と県平均よりやや少なく、5月から9月にかけて約半分に達する。冬は日照時間が長く、県下でも西風の強い地域である。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害大きく、当地でも佐東上で全壊3戸、半壊12戸、佐東下で全壊1戸、半壊1戸、土方上で半壊10戸、土方中で半壊6戸、土方下で全壊1戸、半壊15戸睦三で全壊1戸、半壊3戸、中で全壊57戸、半壊19戸、東大坂で全壊42戸、半壊34戸、三井で全壊5戸、半壊17戸、大坂で全壊7戸、半壊12戸、浜野で全壊1戸、半壊1戸、三浜で全壊6戸、半壊11戸、国浜で全壊43戸、半壊123戸、千浜西で全壊10戸、半壊71戸、千浜東で全壊1戸、半壊12戸の被害があった。また千浜では浜に接した砂丘地帯に地割れ多く、砂地の畑に噴砂丘多数生じ青砂を噴いた。大坂・中村・睦浜でも泥水の噴出した所が多い。各地の震度は東大坂・中・喜右衛門新田で7、千浜で6～7、坂里・浜野・三井・岩滑・佐東で5～6、千浜東・下土方・落合で5であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下で被害を生じたが、当地でも大坂村・来福村・坂里村・成行村・国安村など、いずれも約半数の家が潰れた。土方村では1戸のみが潰れた。各地の震度は大坂・来福・坂里・成行・国安・土方村はともに5～6である。

災害事例 津波

- 1960年5月24日（昭和35年）チリ地震津波
南米、チリ沖の地震による津波で、日本の太平洋岸で被害を生じた。千浜での津波の高さは0.9mであった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
全県沿岸に被害を生じた。当地では三浜で高さ6mの津波に襲われた。

災害事例 台風

- 1982年9月12日(昭和57年)台風18号
全県下で風水害を受けた。最大時間雨量57mm(12日3時~4時)に達した。負傷者1人、全壊2戸、半壊1戸、床上浸水13戸、床下浸水145戸。

災害事例 旱魃

- 1893(明治26年)
6月6日から8月17日まで大旱魃で、田畑の作物は大方枯死し、田はみな亀裂した。
- 1770(明和7年)
旧暦4月、旱魃で畑作は全部枯死した。
- 1693(元禄6年)
大旱魃。